

製品名: p120 (リン酸化 Tyr228) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05140**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC,ICC/IF,ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | リン酸化 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000 |
| 分子量 | 108kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | CTNND1 |
| 別名 | CTNND1; KIAA0384; Catenin delta-1; Cadherin-associated Src substrate; CAS; p120 catenin; p120(ctn); p120(cas) |
| 遺伝子 ID | 1500.0 |
| SwissProt ID | O60716 |
| 免疫原 | 抗血清は、ヒトカテニンデルタ 1 の Tyr228 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 201-250 |

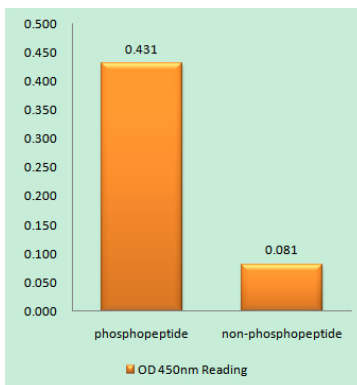
背景

カテニンデルタ 1 (CTNND1) ホモサピエンス この遺伝子は、細胞間の接着とシグナル伝達に機能するアルマジロタンパク質ファミリーのメンバーをコードしています。複数の翻訳開始コドンと選択的スプライシングにより、多くの異なるアイソフォームが翻訳されます。記載されている転写バリエーションの全長の性質はすべて解明されているわけではありません。この遺伝子と隣接する上流のチオレドキシン関連膜貫通タンパク質 2 (TMX2) 遺伝子との間でも、リードスルー転写が存在します。[RefSeq 提供、2010 年 12 月]、代替製品: 一部のアイソフォームについては実験的確認が不十分な場合があります、疾患: 細胞の悪性化に寄与する可能性があります。調査した浸潤性乳管がんの約 10% で、発現の完全な喪失が観察されました。ドメイン: Asp-626--631-Arg が欠失しているすべてのアイソフォームに、核局在シグナルが存在する可能性があります。機能: 転写抑制因子 ZBTB33 に結合して阻害し、Wnt シグナル伝達経路の標的遺伝子の活性化につながる可能性があります (類似性による)。C カドヘリンと E カドヘリンの両方と結合して、その細胞接着特性を制御する可能性があります。SRC による細胞形質転換と、EGF、PDGF、CSF-1、および ERBB2 受容体を介したリガンド誘導性受容体シグナル伝達の両方に関与しています。GLIS2 C 末端切断を促進します。誘導: 血管内皮細胞で創傷によって誘導されます。この効果は、事前に層流せん断応力が加わることで増強され、創傷閉鎖を促進します。PTM: リン酸化されています。類似性: β -カテニンファミリーに属します。類似性: 10 個の ARM リピートを含みます。細胞内局在: GLIS2 との相互作用により核移行が促進されます。サブユニット: E-カドヘリン、 α -カテニン、 β -カテニン、 γ -カテニンを含む多タンパク質細胞間接着複合体に属します。PSEN1 の C 末端フラグメントに結合し、E-カドヘリンをめぐって競合します。ZBTB33 と相互作用します。GLIS2 と相互作用します。組織特異性: 血管内皮細胞に発現します。

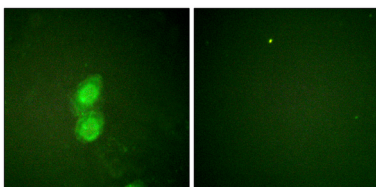
研究分野

Adherens_Junction;白血球の内皮透過移動;

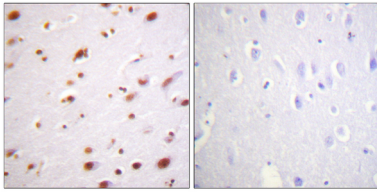
画像データ



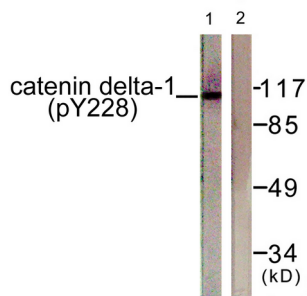
カテニンデルタ 1 (リン酸化チロシン 228) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



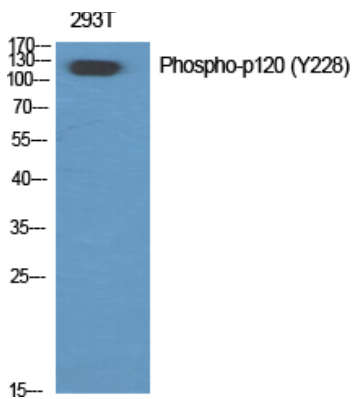
カテニンデルタ 1 (リン酸化チロシン 228) 抗体を用いた HUVEC 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした画像です。



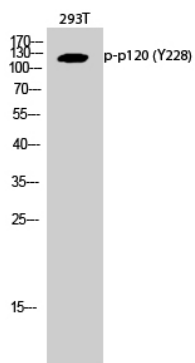
カテニンデルタ 1 (リン酸化チロシン 228) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



カテニンデルタ 1 (リン酸化チロシン 228) 抗体を用いた HUVEC 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 p120 (Y228) ポリクローナル抗体を 1: 500 に希釈して、様々な細胞をウェスタンブロット解析した。



293T 細胞のリン酸化 p120 (Y228) ポリクローナル抗体 (1: 500 希釈) を用いたウェスタンブロット解析